

日吉津村児童の学力・学習状況の現状

平成30年度全国学力学習状況調査結果【小学校】からみえること

本年4月17日に実施した全国学力・学習状況調査の結果を分析し、全国の結果と合わせ本村の状況をお知らせします。

本調査により測定できることは学力の一部であり、競争をあおるものではありませんが、分析の結果が学校・家庭地域の教育力の向上に生かされればと考えます。

教科に関する調査結果（国語・算数・理科）

【国語】

（国語A）

主として「知識」に関する問題

全体では、全国平均を大きく上回りました。観点別に見ると、「話す・聞く能力」と「読む能力」および「言語についての知識・理解・技能」で全国平均を上回っており、学力の定着が見られました。

（国語B）

主として「活用」に関する問題

昨年度に引き続き全ての領域で全国平均を上回りました。ここでは「話す、聞く能力」や「書く能力」の正答率が高く、「話し手の意図を捉える」力が伸びていることがわかります。

【算数】

（算数A）

主として「知識」に関する問題

全体では、全国平均を上回りました。「数と計算」と「数量関係」および「図形」領域で全国平均を上回りました。特に「図形」領域は全国平均より12.9ポイント高くなっています。

（算数B）

主として「活用」に関する問題

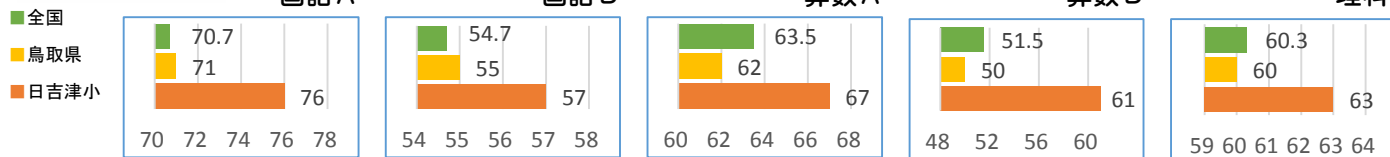
全ての領域で全国平均を上回りました。「示された情報から条件に合う時間を求める」問題や「折り紙の輪の色の規則性から、条件に合う色を判断する」問題の正答率が高くなりました。

【理科】

3年に1度実施される理科は、全体では全国平均を上回りました。主として「活用」に関する問題で正答率が高く、エネルギーに関する問題の正答率が高くなっています。課題としては、「腕が曲がる仕組み」など、生命に関する学習内容の定着があげられます。なお、国・県と比べて無答率が低く、あきらめずに取り組む姿勢が見て取れます。

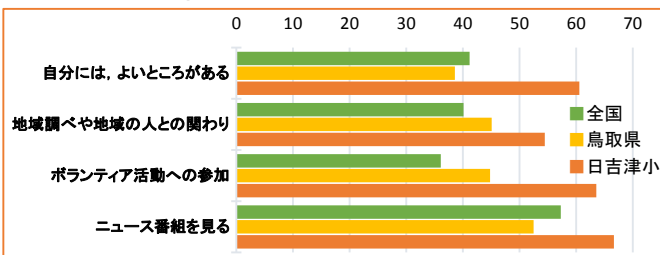


平均正答率（％）

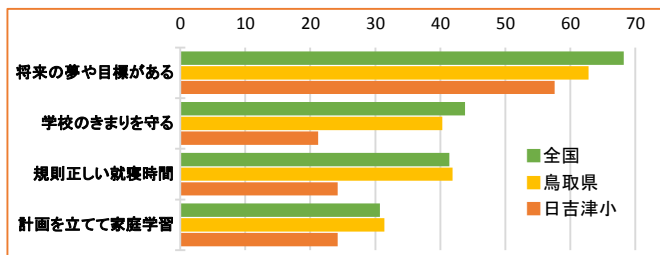


生活習慣や学習状況に関する調査結果

全国平均を上回った項目として、「自分にはよいところがある」といった自尊心や「地域との関わり」「ボランティアへの参加」で見られる地域への関心、「ニュース番組を見る」といった社会事象への関心があげられます。（「当てはまる」と回答した値のみを比較しています）



全国平均を下回った項目は少ないのですが、「当てはまる」と回答した値のみを比較すると以下の項目があります。いずれも「どちらかという当てはまる」を含めると、全国や県の結果とほぼ同じ値になりますので、自信を持って進んで取り組めるようにすることが必要だと考えられます。



【まとめ】国語、算数、理科ともに県、国の平均正答率を上回りました。特に算数B（主として「活用」に関する問題）では国より9.5ポイント、県より11ポイント高くなっています。問題別に見ると様々な課題も見えてきますので、学力のさらなる定着を図るとともに、人間関係づくりや仲間づくりなど社会性を育む取り組みも進めていきたいと思います。